

電気通信工事業における飛来・落下災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	6~7	現場にて夜勤を終え会社の置き場に戻り片付けをしていたところ、立て掛けてあった踏切の遮断機が倒れ右足に当たり右足を負傷してしまった。	53	1~9
2	23~24	電線共同溝設置現場において、掘削作業（深さ1.4m）完了後、配管準備中地山の変化を確認した為、トレンチパイル建て込みを開始した。トレンチパイルを地山に当たった瞬間に舗装片が左大腿部へ落下した。	34	—
5	10~11	被災者は、事業所の倉庫1階で、この後向かう現場で使用する資材の整理をしていた。同様に2階で資材の整理をしていた作業員が、誤って材料（15×30×20cm）を2階から落としてしまい、それが1階の被災者の背中に当たり肩甲骨を負傷したものである。	31	10~29
5	9~10	発電所復旧工事の現場で地下2階から地下3階に足場用単管パイプ（2.5m）を手渡しで下ろす作業をしていた。被災者は地下3階で足場用単管パイプを受け取ったが皮手袋から滑り、自身の右足甲に落下させ受傷した。	54	30~49
5	8~9	工場内で鉄板（60×240×2400程度）を台車に載せて運搬する作業を行っている時、鉄板を多目に積んでいた（200kg程度）事と台車の中心に置いていなかったため、台車を旋回しようとした際に重心が外側にかかり台車ごと倒れそうになった。2人の作業員のうち1人はすぐさま手を離したが、被災者は防ごうとして手を伸ばした為、鉄板と地面に左手を挟まれた。	28	1~9
6	16~17	作業終了後、道具を片付けていたところ、4~5mの山の法面上から落石があり、左手に直撃し、左人差指を骨折した。	44	10~

				29
7	14~15	仮設養生鉄板をフォークリフト、永磁式リフティングネットを使用し敷設作業中道路の縁石（15mm高）を乗り越えた時、鉄板が揺れて高さ60cmから落下し、鉄板の回転・揺れを抑えていた作業員の足が鉄板下方に位置していた姿勢であったため右足甲部に接触した。	64	1 ~ 9
7	16~17	会社の駐車場で、車の扉を開けたら、照明器具（20kg、50×15×15cm）が落ちてきて右足の甲にあたり、打撲した。	29	1 ~ 9
7	9~ 10	主催によるレールボンド溶着作業技能講習会において、レール研磨中にレール研磨盤砥石が突然割れその破片が側にいた受講生の本人の右額部に当たり負傷した。頭部外傷右前額部割創と診断され、全治10日、処置後帰宅した。	33	30 ~ 49
7	14~ 15	通信線を新たに設置する工事の準備で通信線を引っ張るための金車を取り付け延線ロープを金車に通していた。ロープを車両で張り上げている途中で金車を固定していたバンドが破断し、同柱で作業をしていた被災者の顔面左側こめかみ付近に直撃した。破断したバンドはケーブルをまとめるものであり金車を固定するものでなかった。通常はスリングやワイヤーを使用すべきところを扱いやすいことから今回破断したバンドを使用してしまった。	48	10 ~ 29
12	18~19	事業所倉庫内に於いて、翌日の現場（太陽光発電工事）の準備作業中、現場用の工具を揃えている時、棚から圧着工具が右足に落ち負傷したものである。	35	10 ~ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_09.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html)